

「映像で見る福岡市のあゆみ」

—福岡市の終戦から昭和50年代まで—

戦後70年、福岡市は市民の努力により、人口150万人を超える大都市へと成長してきました。今回は、福岡市の発展のあゆみをいくつかの映像でご覧いただき、「FUKUOKA NEXT」の礎（いしずえ）をいっしょに振り返りましょう。

平成28年 **11** 月 **14** 日(月)13:30~15:40

福岡市立中央市民センター 3階ホール

講師：野口文氏(福岡市総合図書館)

定員:500名(先着順) 参加費:無料(申込み不要)

解説(30分程度)の後に、1~4の映像を上映します。

1.博多港復員兵引き揚げ風景 (昭和20<1945>年) モノクロ/サイレント/15分/撮影・GHQ

2.天神ビル (昭和35<1960>年) カラー/27分/製作・九州朝日放送

3.博多—アジアを結ぶ都市福岡— (昭和47<1972>年) カラー/30分/企画・福岡市、製作・読売映画社

4.躍進する都市ふくおか (昭和58<1983>年) カラー/27分/企画・福岡市教育委員会、製作・ティースイエフ

写真パネル展示

3階会場入り口では、中央区の公民館から提供された懐かしい写真も展示



春吉橋

唐人町山笠

1.博多港復員兵引き揚げ風景 (昭和20<1945>年) モノクロ/サイレント/15分/撮影・GHQ

進駐軍が撮影した終戦直後の博多港。輸送船に多くの日本人が乗って帰国したが、到着した博多は、昭和20年6月の空襲で焼け野原と化していた。ここから福岡・博多の戦後復興が始まる。



2.天神ビル (昭和35<1960>年) カラー/27分/製作・九州朝日放送

「^{せんかん}潜函工法」で建築された天神ビル。昭和35年、まだ低い家並が続く天神の町に、巨大なビルが出現！その過程を、映像が克明に記録していた。

3.博多ーアジアを結ぶ都市福岡ー (昭和47<1972>年) カラー/30分/企画・福岡市、製作・読売映画社

城下町として生まれ、新しく開けたビジネス街福岡と、商人の町として栄えてきた博多。政令指定都市となった昭和47年、福岡市の人口は90万人。九州の政治経済文化の中心としてであるとともに、アジア諸地域との交流拠点として、これからも発展していく。



4.躍進する都市ふくおか (昭和58<1983>年) カラー/27分/企画・福岡市教育委員会、製作・ティーツイエフ



人口110万人を超えた昭和50年代後半の福岡市。市民会館、美術館、歴史資料館、少年文化会館、図書館などの文化施設も充実。現在の福岡市の原形ができた頃の様子が描き出される。

※映像資料提供：福岡市総合図書館



福岡市立中央市民センター
中央区赤坂2丁目5-8
電話714-5521
主催・問合せ:福岡市中央区
生涯学習推進課
福岡市中央区大名二丁目5-31
TEL 092-718-1067

地下鉄「赤坂駅」2番出口

または西鉄バス「赤坂門」バス停から徒歩5分

西鉄バス「警固町」バス停から徒歩3分